



鉍物資源論

志賀美英著，九州大学出版会
B5判，289頁，4,500円(税抜き)

現代の私達の恵まれた生活は、自然が地球上にもたらした鉍物資源と言う富を消費～浪費することで成り立っている。特に産業革命以降の浪費はすさまじい。現代人は物質的に豊かな生活を謳歌するのみならず、その背景にある鉍物資源の探査と開発、消費と枯渇、リサイクル、環境対応と国際協調を理解し、潜在する諸問題を認識することが必要である。本書はそのような要望に応える鉍物資源問題の高度な教養の書であり、「枯渇」、「環境」、「利害対立」をキーワードに下記の構成を持つ。

(1) 枯渇問題(第II章～第V章)

ここでは枯渇対策として、将来莫大な量が必要な未開発の鉍物資源と、鉍物資源の増大を可能にする鉍業技術の2つを扱う。前者では深海底と南極の資源について、後者では探査法、製錬、精製法などについて述べる。

(2) 開発と環境の問題(第VI章～第VII章)

鉍物資源開発の各工程で発生する環境汚染源を整理し、汚染防止対策を考えると共に、深刻な「鉍害」を経験した日本を例に、汚染と被害の実態を見る。また、開発と環境の問題に関する最近の事例として、国際世論の圧力によって鉍物資源開発が禁止された南極の鉍物資源問題を取り上げる。

(3) 利害対立問題(第VIII章～第XIII章)

ここでは、世界の鉍物資源の需給構造、南北問題の背景と歴史的経緯、鉍物資源の貿易制度などを明らかにし、先進国による発展途上国の鉍物資源支配が今日でも依然として続いていることなどを述べる。鉍物資源をめぐる今日の南北利害対立の一例として、第3次国連海洋法会議における深海底開発問題を取り上げる。

鉍物資源論

志賀美英 著



九州大学出版会

以上に加えて日本の鉍物資源政策(第XIV章)に対して、戦後日本の鉍物資源産業の盛衰と鉍物資源政策の変遷を顧みる。鉍物資源政策についてはその理念、目標、実施体制などが記述される。また今日の日本の鉍物資源政策の中核を成す資源探査(国内資源、海外資源、深海底資源)、「鉍害」防止、国際協力(ODA事業)、備蓄などを取り上げ、それぞれ経過、成果、現状などを評価する。

最後に今後の目標(第XV章)として直面する3大鉍物資源問題を解決するために日本が取り組むべき5分野8目標を提示する。「5分野」とは「技術開発」、「技術移転」、「消費者啓蒙」、「環境対策技術開発」、「相互依存の認識」であり、各分野に1つから3つ(計8つ)の具体的目標を設定している。

本書は鹿児島大学における教養課程、学部、大学院の3本の講義録から書き下ろされたものだからである。自然科学から工学・社会科学に及ぶ複雑な資源問題が、各方面への綿密な取材によって集められた資料から解析・考察され、日本が進むべき方向を示唆している。この一冊で大学に数年間社会人入学したぐらいの知識が得られるので、本誌の読者にも一読されることをお勧めしたい。

(産総研 特別顧問 石原舜三)